

教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県教科用図書採択地区合同調査委員会

校 種	教 科	教科用図書目録に搭載された教科書総数	本報告書の総 ページ数
小学校	道 徳	8	4

調査研究の観点及び各教科書の特徴

発行者 観点	視 点	2 東書	11 学図	17 教出	38 光村	116 日文	208 光文	224 学研	232 廣あかつき
基礎・基本の定着	①道徳科の学び方等の示し方	<ul style="list-style-type: none"> ・四つの学習の流れ「きづく」「かんがえる・はなしあう」「ふりかえる・みつめる」「いかす」を示している。 ・2年生以降は、「聞く」「役割演技」「話し合い」等の六つの学習活動をイラストで紹介している。 ・巻頭でミニオリエンテーションができるように短い教材が示されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動についてイラスト等を使い、考える視点や話し合いの方法を示している。 ・別冊「まなび」では、教科書とあわせて使い方を示している。 ・別冊「まなび」の中に、「学びのヒント」として、学習活動（話す、聞く、話し合う、役割演技をする。）についての説明がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四つの学習の流れ「きづく」「かんがえる」「ふかめる」「つなげる」を示している。 ・「話し合い」「役割演技」についての説明を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四つの学習活動をイラストや吹き出しを使い、考える視点や話し合う方法をあわせて具体的に示している。（1年生にはなし） ・話し合いの仕方、役割演技の仕方についての説明がそれぞれ1ページずつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三つの学び方「きづく」「かんがえる・ふかめる」「みつめる・いかす」をイラストや写真を使い、示している。 ・「考える・深める」の場面での学習方法について3枚の写真と言葉で説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四つの学習の流れ「とをみつめる」「かんがえる」「まとめる」をイラストで示している。 ・学んだことを生活に生かす流れをイラストや吹き出しで示している。 ・教科書の使い方や道徳ノートの例を示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動について、「話し合ったり演技したり書いたりして考えるよ。」とまとめて示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・六つの学習活動を文章で示している。（1年生はなし）
	②発問の工夫（はしのうえのおおかみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・（1・2年）教科書に発問は掲載されていない。（3年以上）教材文の後に2つ示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「まなび」に主題ごとに見開き1ページで発問を示している。「うさぎを渡らせてあげた時、おおかみはどんなことを思ったでしょう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭に一つ、教材の終わりに具体的な発問を三つ示している。「どうしておおかみは前よりずっといい気持ちになったのでしょうか。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の教材名の下に一つと教材文の終わりに、発問三つを示している。「おおかみは、熊の後姿を見送りながらどんなことを考えていたでしょう。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の教材名の前と教材文の後ろに二つ記載している。「おおかみが前よりずっといい気持ちになったのはどうしてかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の教材名の横に一つ、教材文の下段に二つと終わりに二つ発問を示している。「熊の後姿を見ながらおおかみはどんなことを考えていたのかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の終わりに二つ記載している。「おおかみは、なぜ前よりずっといい気持ちになったのかな。」 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の終わりに二つ記載している。「おおかみは、橋の上で熊の後姿を見ながらどんなことを考えていたのでしょうか。」
主体的に学習に取り組む工夫	③問題解決的な学習を取り入れた工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生以上は教材に入る前のページの全面を使い、問題意識をもたせる工夫をし、教材の後に問題解決学習の流れを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「まなび」に主題ごと問題意識をもたせる問いを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名の下に問題意識をもたせる問いを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを示している。 ・問題解決的な学習ができるように「考えよう」のコーナーを設け、学習のめあてや発問を記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを示している。 ・問題解決的な学習を取り入れる教材は、目次においてマークで示している。 ・問題解決的な学習の進め方について、「学習のめあてや発問とともに写真入りで説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の冒頭に、問題意識をもたせる問いを記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後に「ふかめよう」のコーナーを設け、問題解決的な学習の流れを示しているものがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「考えよう、深めよう」のコーナーに、問題解決的な学習に活用できる発問を掲載してあるものがある。
	④体験的な学習を取り入れた工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「出会う・ふれ合う」のマークを使い、目次及び該当ページに示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「まなび」において、 ①役割演技の方法を具体的に示し、役割演技を促す発問を示している。 ②体験的な活動を促している。 ・「ありがとう」を伝える。（1年）礼儀 ・世界のじゃんけんを紹介（1年）国際理解・国際親善 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習を取り入れる教材は、目次で「スキル」というマークを示している。 ・役割演技・体験的な学習の例として、「やってみよう」が10ヶ所掲載されている。 ・教材「なんていったらよいのかな」（1年：善悪の判断）において、体験的な活動を通して、具体的な言葉について考えさせている 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の後に挿絵とともに役割演技を促す発問を記載している。役割演技のやり方について説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習を取り入れる教材は、目次等においてマークで示している。 ・「学習の手引き」において、写真を使って役割演技の方法を説明し、学習のめあてとともに発問を示している。（例：1ねん「ひつじかいのこども」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材絵の後、「あいさつのれんしゅうをしてみよう」という言葉を示し、体験的な活動を促している。（1年「あいさつげんきに」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文の後の「やってみよう」のコーナーで役割演技の方法についての説明が具体的な発問とともに示されている。 ・友達への声かけを体験することで友情信頼についての考えを深める活動が紹介されている。（2年「竹馬と一輪車」） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の後の「考えよう、深めよう」のコーナーに、役割演技に活用できる発問を掲載してあるものがある。

内容の構成・配列・分量	⑤分量や教材の数	判型 ・AB ページ数 ・p128～200 教材数(4つの視点) ・A8～10 B7～9 C9～12 D6～8	判型(別冊判) ・AB(AB) ページ数 ・p118～150 (p50～54) 教材数(4つの視点) ・A9～10 B7～8 C10～13 D6	判型 ・AB ページ数 ・p134～170 教材数(4つの視点) ・A8～12 B6～9 C10～13 D4～8	判型 ・B5変型 ページ数 ・p145～221 教材数(4つの視点) ・A8～10 B8～9 C11～12 D5～7	判型(別冊判) ・AB(AB) ページ数 ・p154～190 (p42) 教材数(4つの視点) ・A8～11 B8～10 C12～14 D5～8	判型 ・A4変型 ページ数 ・p158～194 教材数(4つの視点) ・A7～12 B8～12 C12～14 D6～9	判型 ・A4 ページ数 ・p138～170 教材数(4つの視点) ・A9～12 B8～9 C9～11 D6～8	判型(別冊判) ・AB(AB) ページ数 ・p118～170 (p44～56) 教材数(4つの視点) ・A10～11 B8～9 C10～11 D5～6
	⑥現代的な課題等を踏まえた内容の示し方	・いじめ問題を題材として直接的に扱う教材と、間接的に扱う教材の二つを、一つのユニットとして組み合わせた「いじめのない世界へ」を設けている。 【例(第5学年)】 「いじめのない世界へやなせたかさんの言葉」 「転校生がやってきた」 「ノンステップバスのできごと」	・いじめの問題について、日常生活で起こりうる問題から考えられる教材を選定している。 ・「公正、公平、社会正義」の内容項目をいじめの問題に向き合う教材の中心として、複数選定している。 ・「学級づくり」のページを設けている。 【例(第5学年)】 「言葉のおくりもの」 「しらんぷり」 「たったひとつのたからもの」	・いじめ問題を扱う教材には、重点的に扱うマークを使用。 ・いじめ問題を題材として直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。 【例(第5学年)】 「知らない間のできごと」 「差別のない社会へ」 「だれかをきずつける機械ではない」	・いじめ問題を扱う教材には、「いじめを許さない心」マークを使用。 ・様々な内容項目からいじめ問題に結びつく教材を、よびかけとコラムとともに一つのユニットとして設けている。 【例(第5学年)】 「すれちがい」 「どうすればいいのだろう」 コラム「おたがいを大切にしよう」	・「人との関わり」をテーマに複数の教材や関連するコラムを一つの「いじめ防止」のユニットとして、いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材に、コラム「心のベンチ」を組み合わせて、学期に1回ずつ設けている。 【例(第5学年)】 「真由、班長になる」 「名前のない手紙」 心のベンチ「『いじめ』の傍観者」	・いじめ問題を扱う教材には、「いじめを生まない心」マークを使用。 ・いじめの防止について、いじめを直接的に扱う教材と間接的に扱う教材を選定している。 ・コラム「みんな仲よし楽しい学校」を設けている。 【例(第5学年)】 「広い心で、おたがいをみとめ合おう」 「まかせてみようよ」 「みんなの劇」	・いじめ防止をテーマとして直接的に扱う教材と、間接的に扱う教材を選定している。 ・「公正、公平、社会正義」の内容項目を中心として、発達段階に応じて「友情、信頼」、「親切、思いやり」等の内容項目においても教材を選定している。 【例(第5学年)】 「いじめをなくすために」 「言葉のおくりもの」 「日本の『まんがの神様』」	・低・中学年では「仲間はずれ」「友達どうしのトラブル」等、いじめを間接的に扱った教材を選定し、高学年では、いじめを直接的に扱った教材も合わせて選定している。 ・「善悪の判断、自律、自由と責任」の内容項目を中心として、発達段階に応じて「友情・信頼」、「公正・公平、社会主義」等の内容項目においても教材を選定している。 【例(第5学年)】 「金曜日の班活動」 「魚の世界」 「ぼくの名前よんで」
内容の表現・表記	⑦巻頭・巻末等の取扱いの工夫	巻頭 ・「これから一年間で学ぶこと」として、四つの視点ごとに教材名を示している。 ・「道徳の学習をすすめるために」を示している。 ・第2学年以上は、「道徳の時間が始まるよ!」を折り込みページで示している。 巻末 ・「学習の記録」「学習のふり返し」「これからはかがやく自分に!」を設けている。 ・各教科等における道徳教育と関連する付録	巻頭 ・「道徳の学習を始めよう」「学級づくり」を示している。 ・別冊「まなび」の目次には、四つの視点で色分けしたマークとともに、掲載している全ての教材名を示している。 ・別冊「まなび」には、「まなびの道しるべ」「教科書『まなび』の使い方」を示している。 巻末 ・「ふるさとコラム」を示している。 ・内容項目別教材一覧を四つの視点別、関連する現代的な課題等を記載している。	巻頭 ・各学年、「道徳の学習が始まるよ」「道徳ではこんな学習をするよ」を示している。 巻末 ・「学びの記録」「1年間の道徳の学習を振り返ろう」のページを設けている。 ・第1・2学年には、「みにつけよう れいぎ・マナー」を示して	巻頭 ・目次の前には、命をテーマにした詩を掲載している。 ・第2学年以上は、「道徳の時間」「この本で学ぶみなさんへ」を示している。 巻末 ・第5・6学年には、「あなたへのメッセージ」を示している。 ・人とよりよい関係を築くための付録を示している。 ・第3学年以上には、日	巻頭 ・「道徳のとびら」「道徳の学び方」を示している。 ・別冊「道徳ノート」の目次には、四つの視点で色分けをし、掲載している全ての教材について、第1学年は、かるた風のイラストを、第2学年以上は教材名を示している。 ・別冊「道徳ノート」には、道徳ノートの使い方を示している。 巻末 ・「あすをみつめて」を示している。 ・内容別教材一覧表を4つの視点別で示し、他教科との関連をマークとともに記載している。	巻頭 ・「さあ、道徳の学習が始まります」「道徳の時間は、こんな時間で・・・」「この本の使い方」を示している。 巻末 ・内容項目別教材一覧を四つの視点別で示し、現代的課題との関連性のある内容項目等を記載している。 ・折り込みで、「学びの足あと」を設けてい	巻頭 ・目次の前には、詩を掲載している。 ・「道徳の学習が始まるよ」を示している。 ・「自分のことを書いてみよう」を設けている。 巻末 ・内容項目別教材一覧を四つの視点別で示している。 ・「心の宝物」を設けている。 巻末 ・第3学年以上には、教材と関連して学びを深める特集のページを示している。 ・別冊「道徳ノート」には、折り込みで、「心のしおり」を設けている。	

		<p>を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のまとめ」のページを、学期ごとに色分けをし、設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「まなび」には、「まなびのヒント」として、話合いの仕方等を示している。 ・各学年の別冊「まなび」には、保護者向けに四つの視点の内容とともに、めざすこと、教材を示している。 	<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、内容項目別教材一覧を四つの視点別で示し、現代的な課題との関係、他教科・領域との関係、第3学年以上には、「まなびリンク」のマーク等を記載している。 	<p>本の伝統文化について示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年、内容項目別教材一覧を四つの視点別で示し、現代的な課題等との関わり、他教科・領域との関わりを記載している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別冊「道徳ノート」には、「道徳の学習で学んだことを書きましょう。」のページを設けている。 ・第1学年の別冊「道徳ノート」の目次には、四つの視点で色分けし、全ての教材名を示している。 			
	⑧教材の内容を理解させる工夫	<p>マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出会う・ふれ合う」コミュニケーション活動による相互理解を深める学習 ・「つながる・広がる」各教科等と関連づけた学習 ・「問題を見つけて考える」問題解決的な学習 ・「いじめのない世界へ」いじめをしない、許さず育てることのできる学習 ・「情報モラル」情報モラルを扱った教材 ・「Dマーク」QRコード内容に関連した動画にリンク <p>キャラクター</p> <p>「ころん」 発問を示す。</p>	<p>マーク</p> <p>〈本冊「きづき」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ともにいきる」いじめに関わる教材 ・「情報モラル」情報モラルを扱った教材 ・「コラム」関連する補助資料としての読み物コラム <p>〈別冊「まなび」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こころのパレット」主に、授業の導入等で活用する教材 ・「かんがえよう」は中心発問、「みつめよう」は後段での発問、「やってみよう」は体験的な学習活動 ・「つなげていこう」授業を振り返っての自己評価 ・「鉛筆マーク」自分や友達の考えを書く欄 ・補助資料にリンクするQRコード 	<p>マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめをなくす」黄色 ・「情報モラル」青色 ・「生命尊重」赤色 ・中心的な発問をマークで示している。 ・「スキル」体験的な学習ができる ・「考えよう」「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」問題解決的な学習ができる・体験的な学習ができる ・「まなびリンク」QRコードが補助資料にリンク <p>キャラクター</p> <p>「とりどり先生」 主題へ誘う発問</p>	<p>マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習のまとめ」1年間を三つのまとまりに分けた ・中心的な発問をマークで示している。 ・「コラム」現代的な課題について考えることができる内容 ・「考えよう・話し合おう」学びのめあて ・「つなげよう」他教科等との関連や日常生活、次の道徳の授業へとつなげる。 ・QRコードがデジタルコンテンツにリンク <p>キャラクター</p> <p>「ころん」 児童と教材を結びつける問い 「きらりん」 めあてに沿った発問</p>	<p>マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学び方マーク」体験的な学習、問題解決的な学習を散り入れた指導例と、多様な実践活動を生かす学習に対応した指導例 ・「考えてみよう」「見つけよう生かそう」ねらいに迫る発問等 ・「ふろく」補助教材 ・「心のベンチ」道徳的価値について考えを広げ深めるためのコラム ・「教科書デジタルコンテンツ」関連する動画や画像等の資料にリンク <p>キャラクター</p> <p>「ココロウ」 教材に入り込むきっかけとなる発問 「はるひと」「あかね」「なおや」「りさ」 学習をガイド</p>	<p>マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「命をかがやかせる」「いじめを生まない心」「情報社会を生きる」「まとめる」「ひろげる」学習をふり返り、授業後につなげる発問 ・「みんなでやってみよう！」よりよい人間関係の構築に向けたコラム ・「情報モラル」情報モラルを扱った教材 ・「コラム」関連する教材 ・「みんなが仲良し楽しい学校」児童自らがいじめの防止等に主体的にかかわる態度を育むためのコラム ・「ことばのたからもの」語彙の獲得にもつなげるための名言や格言 ・「オリンピック・パラリンピック」オリンピック・パラリンピックを題材とした教材 ・「学びの足あと」授業の記録を書く <p>キャラクター</p> <p>「みらいさん」「ゆたかさん」「トリー」 「わんだ先生」 考えるためのポイントや考えを広げるための見方等を示す。</p>	<p>マーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いのち」「いのちの教育」を扱ったユニット教材 ・「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」「広げよう」学習を広げ、深める ・「考えよう」発問を示す。 ・「鉛筆のマーク」自分の思いや考えを書きこむ ・「家のマーク」家庭や地域社会と連携する学習活動 ・「情報モラルのマーク」情報モラルを暑かった教材 ・QRコードインターネットで写真を見たり音声を聞いたりできる教材 <p>キャラクター</p> <p>「明日香」「未来」 表紙とともに、各学年の一つの教材の登場人物として示す。</p>	<p>マーク</p> <p>〈本冊〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習の道すじ」「学習を広げる」学習内容を広げたり深めたりできるように示す ・「インターネット」インターネットを使用して、関わりのある情報にリンクできる <p>〈別冊「道徳ノート」〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鉛筆マーク」教材を通して感じたことや考えたことをまとめるための書き込み欄
言語活動の充実	⑨考えを伝え合う活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習を進めるために」の中に、「考える話し合う」活動を示し、「話し合いの約束」として、話し合いの留意点を示している。 ・巻頭の「ちょっとみんなで話し合ってみよう」の中にショートストーリーを例とし、自分の考えをもつ活動を設定して 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「道徳の学習を始めよう」の中に話合いの状況を示している。 ・別冊「まなび」の巻末に「まなびのヒント」のページを設け、上手な話し方・聞き方、上手な話し合いのポイントを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭「〇年生の道徳の学習が始まるよ」の中に話し合いの意義や活動について示している。 ・巻頭の「道徳ではこんな学習をするよ」の「考える」の中に「話し合ってみよう」として話し合いのポイントを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間は」の中に、「考えよう」というキーワードを用いた学習活動の一環として話し合いの具体的な状況を示している。 ・巻末に、「おたがいがこちよくなる話し方を身につけよう！」のページを設け、人と話す時の三つの大切なポイントと三つの言い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学び方」の「考える・深める」の中に、話し合いの具体的な状況を示している。 ・「学習の手引き」や「心のベンチ」の中に話し合いの流れを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の時間は、こんな時間です」の中の、学習の手順に、話し合う活動を提示し、話し合いのポイントを示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巻頭の「道徳の学習が始まるよ」の中の、学習全体でねらいとする活動や内容を紹介し、話し合いの意義やポイントを示している。 	

		<p>話し合う学習活動</p> <p>・教材の終わりに議論させることを促し多様な考えを引き出す活動を示している。</p> <p>例：6年—白旗の少女，手品師，夜空，あなたはどうか考える？</p>			<p>話し合う学習活動</p> <p>・別冊「まなび」の中に、「かんがえよう」「やってみよう」のマークを使い，教材における話し合いの場面を設定している。</p> <p>・「やってみよう」【2時間分】</p>				<p>話し合う学習活動</p> <p>・教材の終わりの「学びの手引き—『考えよう』や『深めよう』」の中に，話し合いを促す発問を示している。</p>					<p>話し合う学習活動</p> <p>・教材の終わりの「考えよう 話し合おう」の中に，教材における話し合う活動を示している。</p>
	<p>⑩考えをまとめたり，振り返ったりする活動の工夫</p>	<p>・巻末に，1時間の授業ごとに色を一コマ塗ったり，学習を振り返って自己評価をマークで描いたりするページを設けている。また1年間を振り返ったり，心に残った教材を振り返ってまとめたりするページを設けている。</p> <p>・「学習の記録」【35時間分】</p> <p>・「学習のふり返り」【授業43時間分】</p> <p>・「これからもかがやく自分に！」【記入欄2か所】</p> <p>・「学習のまとめ」【学期ごとに記入欄3か所，長期休業前3回分】</p>	<p>・別冊「まなび」に，学習を振り返って自己評価をマークで描いたり，「まなびの道しるべ」に心に残った話等を書いたりする欄を設けている。</p> <p>・「つなげいこう」【35時間分】</p> <p>・巻頭の「まなびの道しるべ」【2回分】</p>	<p>・巻末に学習した日付や教材で心に残ったこと等を記入したり，一年間の道徳の学習を振り返ったことを記入したりするページを設けている。</p> <p>・「学びの記録」【41時間分】</p> <p>【記入欄3か所】</p> <p>・振り返り【記入欄3箇所】</p>	<p>・「学習のまとめ」ごとに，区切りのページを設け，「学びの記録」とともに，自分の学びの変化や学んだことが生かされたことを記入する，「まとめ」の欄を設けている。</p> <p>・「学びの記録」【35時間分】</p> <p>・「まとめ」【【記入欄3箇所】】</p>	<p>・別冊「道徳ノート」に，学習を振り返って自己評価をマークで描く欄を設けている。</p> <p>・別冊「道徳ノート」の巻末に道徳の学習で学んだことを書く振り返りのページを設けている。</p> <p>・別冊「道徳ノート」の毎時間のワークシート1ページに，自分の考え，友達の考え，学びのまとめを書く欄を設けている。</p> <p>・自己評価欄【38時間分】</p> <p>・学んだことの振り返りのページ【4回分】</p>	<p>・巻末に，学習した日付，教材番号，授業後の心の動きや学びを記録する，振り返りの欄を設けている。また，学期末や年度末に，道徳で学んだことを振り返って記入する，「まとめ」の欄を設けている。</p> <p>・「学びの足あと」【36時間分】</p> <p>・「まとめ」【3回分】</p>	<p>・巻末に，道徳の学習を通して，心に残った言葉や話等を記入し，1年間の学びを振り返るページを設けている。</p> <p>・「心の宝物」【記入欄5箇所】</p>	<p>・別冊「道徳ノート」に，考えたり振り返ったりしたことを書く欄や，巻末に，心に残っている授業などについて記録するページを設けている。また，学習を振り返って自己評価をマークで描く折り込みを設けている。</p> <p>・「学習の記録」【36時間分】</p> <p>・「話し合い活動の記録」【2回分】</p> <p>・「体験活動の記録」【2回分】</p> <p>・「心に残っている授業の記録」【4回分】</p> <p>・「心のしおり」【35時間分】</p>					